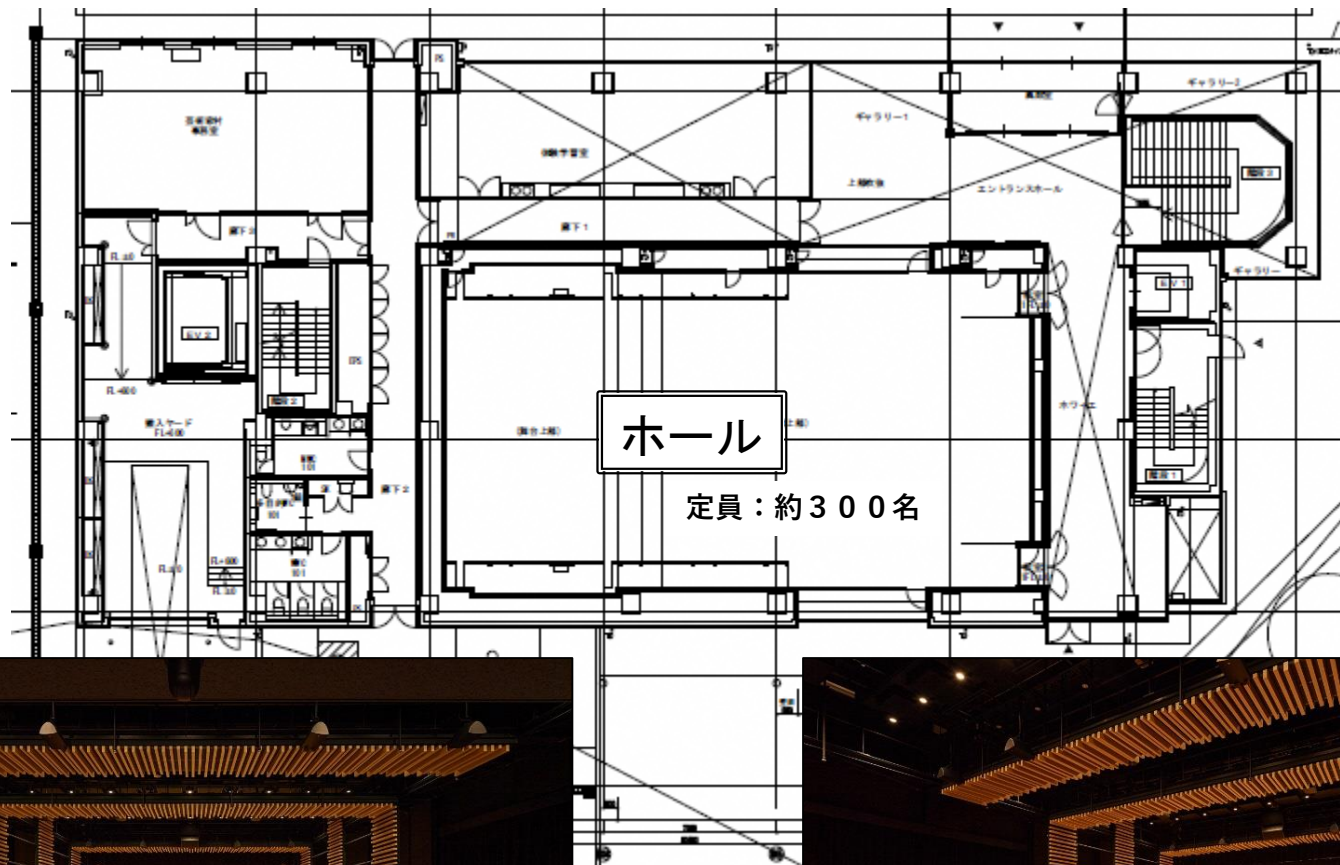
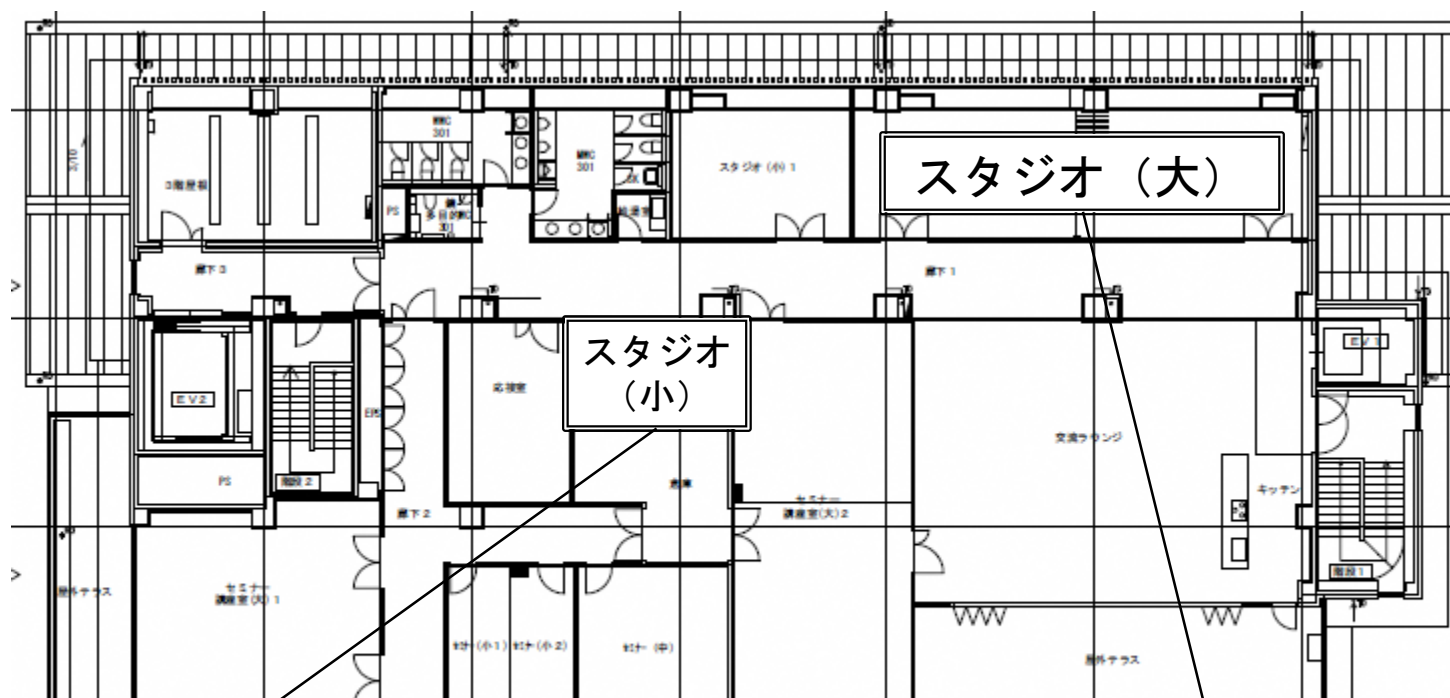


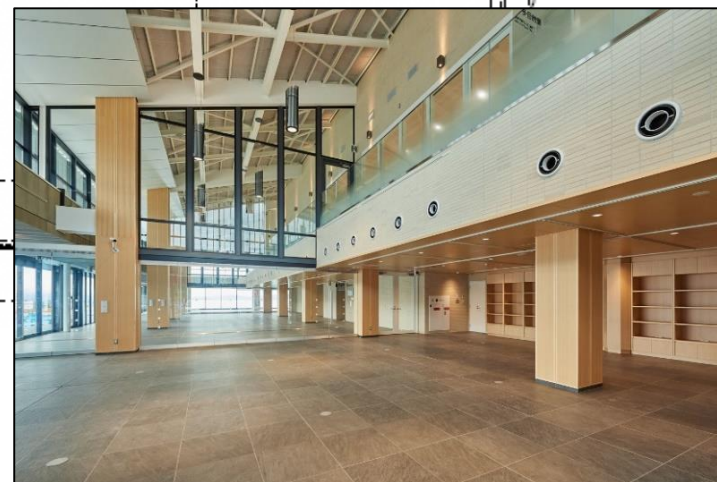
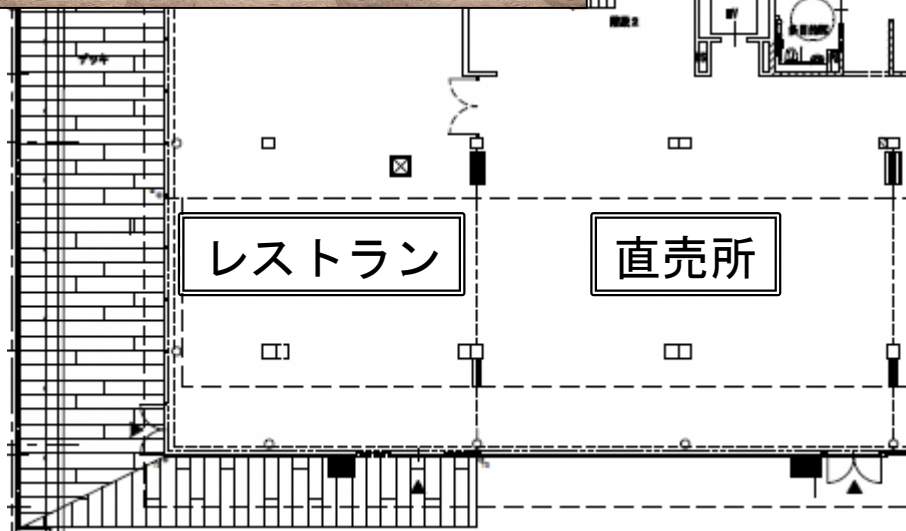
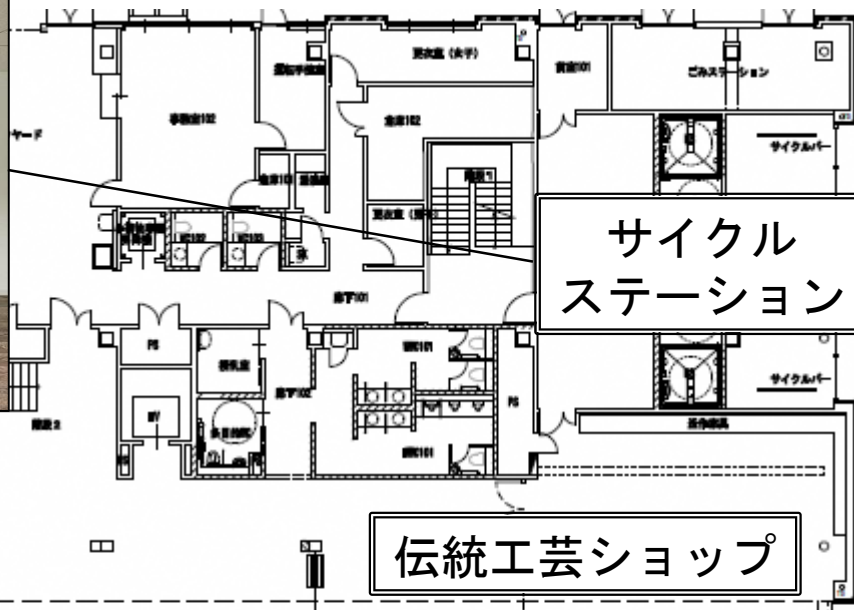
芸術文化体験棟 (1 F)



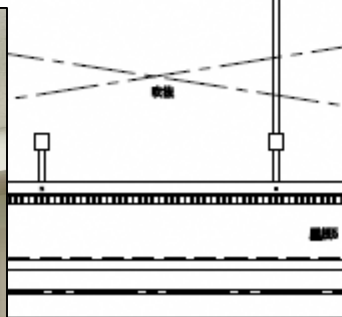
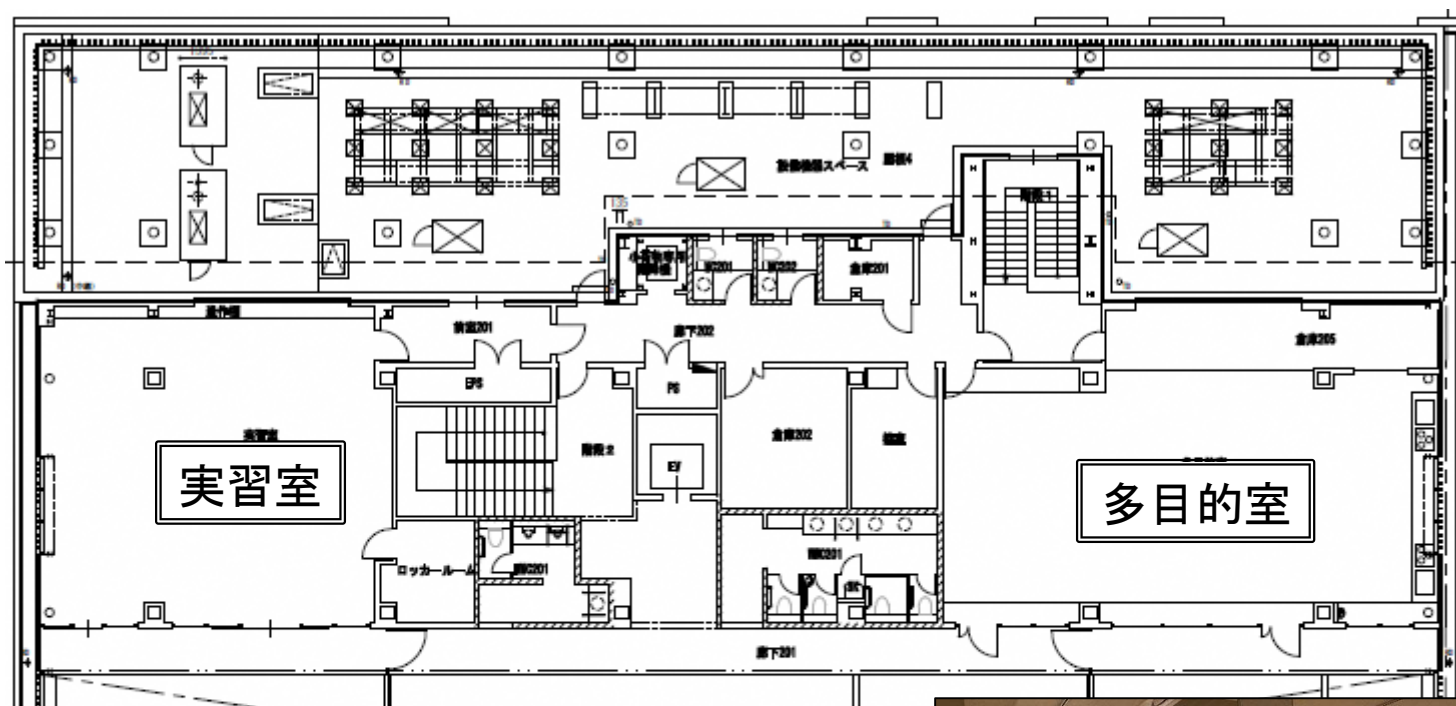
芸術文化体験棟（3F）



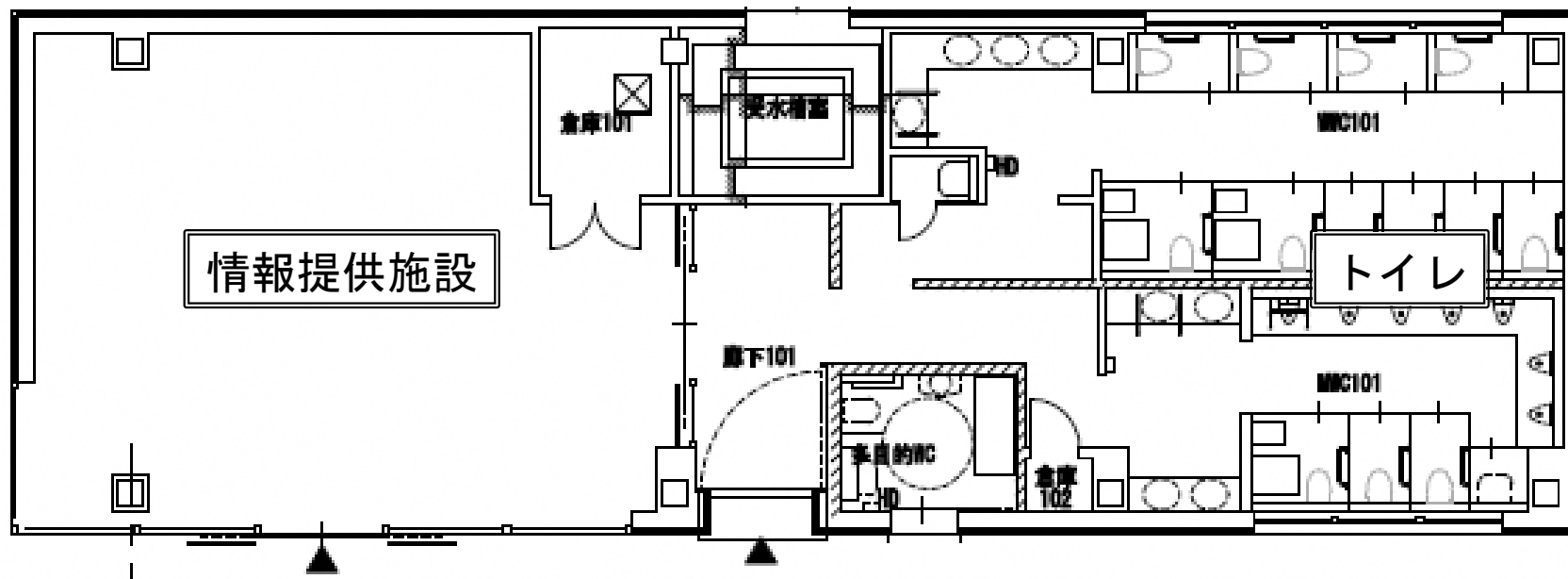
交流にぎわい棟（１Ｆ）



交流にぎわい棟（2F）



情報発信棟



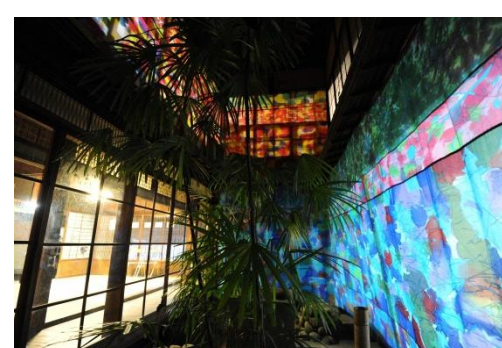
Art-Space TARN

奈良・町家の芸術祭

はならあと



はならあと2012



はならあと2017

撮影:長谷川朋也

Art-Space TARNにおいて、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)やワークショップ等の活動を行うとともに、「奈良・町家の芸術祭 はならあと」と連携し、空き町家を活用して展覧会を開催するなど、周辺地域を巻き込んだ取り組みを行っています。

奈良・町家の芸術祭
はならあと



空き町家を展覧会会場として活用



John Gan Jihn



加納俊介

「芸術文化に会える街」を目指して ～芸術文化エリア(駅前広場～なら歴史芸術文化村)での活動状況～

新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会のあり方やアーカイブの方法論が変化する中、「Art-Space TARN」では、なら歴史芸術文化村のオープンを見据えた取組として、アーティスト・イン・レジデンスやワークショップなどの芸術事業について、コロナ後の新しい世界に対応できる様々な方法で実施しています。

● アーティスト・イン・レジデンス (AIR)

創作活動を通じたアーティストと市民との多様な交流や、市民が直接創作プロセスに触れる機会の創出などにより、地域の芸術・文化の振興を図ることを目的として実施



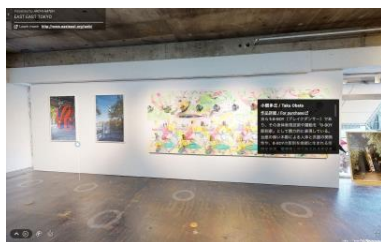
With コロナ＝新しいAIRの形を発信

リサーチャー制度

大学生やサポートスタッフ等市民の方をリサーチャーとして設定し、アーティストの要望に基づき、現地の写真や音声等の素材をアーティストに提供。

オンライン展覧会

ドローンやストリートビューを活用して、web上でオンラインの展覧会を開催。



Matterportによる展覧会ストリートビュー



参考:リサーチャーのイメージ



2019年度AIRアーティストによる映像作品



2020年度AIRアーティストによる作品
A piece for cake.(2017)

● ワークショップ

アートに特化した敷居の低いワークショップを行うことで、子どもから大人までより多くの方が、普段あまり接することのない芸術やアーティストと直接交流を持ってもらうことを目的として実施



With コロナ＝ソーシャルディスタンスを造る

1. ソーシャルディスタンスのための造形物や衣装を制作

子どもたちが自発的にソーシャルディスタンスを保つことができるような造形物や衣装を制作。

2. 祭りパフォーマンス

疫病退散の願いを込め天理駅から「なら歴史芸術文化村」までの3ルートを練り歩く。

3. ルートマップへの活用

道中撮影した「まち」の様子をルート上へ落とし込み、ルートマップの作成に活用

● サポートスタッフ

AIR成果展の監視当番や県内外の展覧会の情報発信など、アートの拠点施設としてのTARNの活動をサポート。
市在住の主婦の方や、現代アーティスト、キュレーター経験のある方、また市外からもサポートスタッフとして活動いただいています。
アーティストと市民の交流促進やサポートスタッフの育成により、芸術文化に開いたまちの風土の醸成に繋がっていきます。



サポートスタッフ研修会



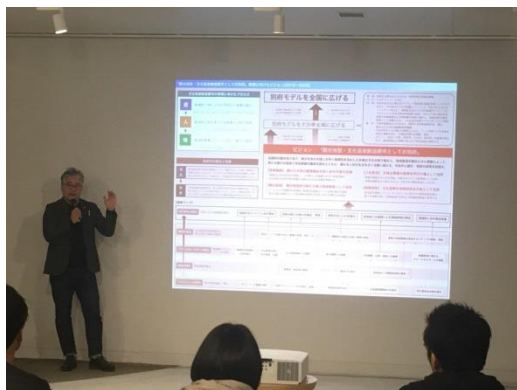
座談会の様子



アーティストから展覧会の説明を受ける様子

● シンポジウム

「アートが地域にもたらす役割と可能性」をテーマとして、アートがどのような文化的効果や役割を担うことができるか、天理市のような地方自治体がアートとどのように向き合っていくのか、各視点からその可能性をさぐるべくシンポジウムを開催



シンポジウム
アートが地域にもたらす
役割と可能性

2020. 2.16 Sun
13:30-17:00 [開場13:00から]

MC 木下智恵子/林 寿美/山出淳也
パネリスト 天理大学教員 天理大学学生 天理市市民 天理市市民 天理市市民

司会 服部 滋樹
会場 天理駅前広場CoFuFun 入場無料
定員 50名程度
事前申込は
https://tarn.aibn.jp/5246183.htm

主催 天理市 共催 Air Space TARN 後援 天理市 天理市市民 天理市市民 天理市市民 天理市市民